

Ⅲ. 調査結果の要約

1 区の施策および評価について

(1) 居住年数

【本文 57ページ】

「31年以上」(36.0%)と「21年～30年」(16.7%)を合わせた『長期居住者』(52.8%)が5割を超えている。また、「11年～20年」の『中長期居住者』(18.7%)が2割近く、「6年～10年」の『中期居住者』(11.1%)がほぼ1割、「1年～5年」(12.1%)と「1年未満」(4.1%)を合わせた『短期居住者』(16.2%)が1割半ばとなっている。

(2) 住みごち

【本文 59ページ】

「住みよい」(34.7%)が3割半ば、「まあ住みよい」(57.2%)が6割近くで、この2つを合わせた『肯定的評価』(91.9%)は9割を超えている。また、「あまり住みよくない」(4.4%)、「住みにくい」(0.7%)を合わせた『否定的評価』は5.1%となっている。

(2-1) 練馬区が住みよいと感じるところ

【本文 64ページ】

「みどりが豊かで環境がよい」(55.0%)が5割半ばと最も多く、次いで「交通の便がよい」(48.0%)、「買い物がしやすい」(43.7%)、「治安が比較的よい」(40.1%)などの順となっている。

(2-2) 練馬区が住みにくいと感じるところ

【本文 68ページ】

「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」(21.1%)、「交通の便が悪い」(20.7%)がほぼ2割と多く、次いで「近隣と疎遠で地域住民の関係が希薄である」(16.8%)、「防災の面で不安がある」(16.1%)、「働く場所があまりない」(15.5%)などの順となっている。

(3) 定住意向

【本文 72ページ】

「ずっと住み続けたい」(36.2%)と「当分は住み続けたい」(37.2%)を合わせた『定住意向』(73.5%)が7割を超えている。一方、「できればよそへ移りたい」(4.7%)と「よそへ移りたい」(1.2%)を合わせた『転出意向』は5.9%となっている。

(4) 練馬区への愛着

【本文 76ページ】

「愛着を感じる」(33.2%)と「どちらかというとな愛着を感じる」(44.5%)を合わせた『感じる』(77.7%)が8割近くとなっている。一方、「どちらかというとな愛着を感じない」(7.4%)と「愛着を感じない」(2.7%)を合わせた『感じない』(10.1%)はほぼ1割となっている。

(5) 練馬区に対する誇り

【本文 79ページ】

「誇りを感じる」(12.6%)と「どちらかというとな誇りを感じる」(35.2%)を合わせた『感じる』(47.8%)が5割近くとなっている。一方、「どちらかというとな誇りを感じない」(12.9%)と「誇りを感じない」(8.3%)を合わせた『感じない』(21.1%)はほぼ2割となっている。

（６）区施策への満足度と必要性

【本文 82ページ】

満足度についてのそれぞれの上位5つの項目は次のようになっている。

『満足評価』上位5項目		『不満評価』上位5項目	
① 健康づくり	(79.5%)	① 交通安全対策	(61.0%)
② みどりの保全と創造	(78.2%)	② 災害に強く生活しやすいまちづくり	(42.6%)
③ 循環型社会づくり	(76.7%)	③ 道路や公共交通の整備	(40.8%)
④ 防犯・防火・防災	(65.4%)	④ 地域環境の保全	(40.1%)
⑤ 開かれた行政運営	(65.3%)	⑤ 公共住宅の整備や住まいづくり の情報提供	(38.9%)

必要性についてのそれぞれの上位5つの項目は次のようになっている。

『必要性が高い評価』上位5項目		『必要性が低い評価』上位5項目	
① 医療体制の確立	(88.0%)	① 地域の国際交流	(44.4%)
② 交通安全対策	(85.9%)	② 観光の推進	(44.2%)
③ 健康づくり	(85.1%)	③ 消費者の自立支援	(41.1%)
④ 災害に強く生活しやすい まちづくり	(84.7%)	④ 中小企業・商店街の振興	(39.1%)
⑤ 防犯・防火・防災	(84.5%)	⑤ 平和と人権の尊重や男女共同参画の推進	(38.3%)

（７）施策への要望

【本文 94ページ】

「交通安全対策」（23.5%）が最も多く、次いで「高齢者福祉」（20.2%）、「子育て支援」（17.3%）、「医療体制の確立」（16.8%）、「道路や公共交通の整備」（15.6%）などの順となっている。

（８）特に「不満」と思う施策

【本文 104ページ】

区政策への満足度30項目のいずれかで「4. 不満」と回答した方（385人）の特に不満と思う施策は、「交通安全対策」（26.8%）が2割半ばと最も多く、「道路や公共交通の整備」（12.7%）、「子育て支援」（11.9%）、「地域環境の保全」（11.2%）などの順となっている。

（９）特に「あまり必要ない」と思う施策

【本文 105ページ】

区政策への必要性30項目のいずれかで「4. あまり必要でない」と回答した方（246人）の特にあまり必要ないと思う施策は、「観光の推進」（16.3%）が1割半ばと最も多く、「地域の国際交流」（12.6%）、「地域活動の支援」（9.3%）、「平和と人権の尊重や男女共同参画の推進」（8.1%）などの順となっている。

（10）区政情報の入手先

【本文 106ページ】

「ねりま区報」（74.4%）が7割半ばと最も多く、次いで「区ホームページ（携帯サイト、スマートフォンサイトを含む）」（36.8%）、「わたしの便利帳」（30.6%）、「区の施設・窓口にあるポスターやパンフレット」（14.0%）、「区役所に直接問合せ（電話を含む）」（6.8%）などの順となっている。

(11) 『ねりま区報』の閲読度

【本文 108ページ】

「詳しく読んでいる」(13.5%)と「必要な記事は読んでいる」(46.6%)を合わせた『読んでいる』(60.1%)はほぼ6割となっている。一方、「あまり読んでいない」(20.5%)と「まったく読んでいない」(14.9%)を合わせた『読んでいない』(35.4%)は3割半ばとなっている。

(11-1) 『ねりま区報』の満足度

【本文 111ページ】

『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(589人)の満足度は、「とても満足している」(4.4%)と「満足している」(79.6%)を合わせた『満足評価』(84.0%)は8割半ばとなっている。一方、「あまり満足していない」(14.4%)と「満足していない」(0.3%)を合わせた『不満評価』(14.8%)は1割半ばとなっている。

(11-2) 『ねりま区報』を読んでいない理由

【本文 114ページ】

『ねりま区報』を「あまり読んでいない」または「まったく読んでいない」と答えた方(347人)の理由は、「新聞を購読していない」(37.8%)が4割近くと最も多く、次いで「入手方法がわからない」(26.2%)、「必要な記事がない」(21.0%)、「つまらない」(11.5%)の順となっている。

(12) 『区ホームページ』の閲覧度

【本文 116ページ】

「必要に応じて見ている」(42.8%)が4割を超えている。「ほとんど見ていない」(39.3%)がほぼ4割、「見られる環境がない」(9.7%)がほぼ1割となっている。

(12-1) 『区ホームページ』の情報の見つけやすさ・わかりやすさ

【本文 119ページ】

『区ホームページ』を「よく見ている」または「必要に応じて見ている」と答えた方(437人)の閲覧している情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度は、「とても満足している」(2.5%)と「満足している」(65.4%)を合わせた『満足評価』(68.0%)は7割近くとなっている。一方、「あまり満足していない」(26.1%)と「満足していない」(3.2%)を合わせた『不満評価』(29.3%)はほぼ3割となっている。

(12-2) 『区ホームページ』を閲覧するときに利用する機器

【本文 123ページ】

『区ホームページ』を「よく見ている」または「必要に応じて見ている」と答えた方(437人)の閲覧する際の主な利用機器は、「パソコン」(62.2%)が6割を超えて最も多くなっている。「スマートフォン(高機能携帯電話)」(21.3%)がほぼ2割、「携帯電話」(4.3%)、「タブレット」(3.4%)は5%未満となっている。

(13) 『練馬区情報番組ねりまほっとライン』の認知度

【本文 125ページ】

『練馬区情報番組ねりまほっとライン』を知っているか聞いたところ、「知っている」(27.7%)は3割近くとなっている。一方、「知らない」(69.2%)はほぼ7割となっている。

(13-1) 『練馬区情報番組ねりまほっとライン』の視聴度

【本文 127ページ】

『練馬区情報番組ねりまほっとライン』を「知っている」と答えた方(271人)の視聴度は、「見ている」(7.7%)と「面白そうなコーナーだけ見ている」(28.4%)と合わせた『見ている』(36.2%)は3割半ばとなっている。

2 防災について

(1) 大地震発生時のための日頃の備え

【本文 129ページ】

「防災用品（救急医薬品、ラジオ、懐中電灯、ろうそく、コンロなど）の備蓄」（61.2%）が6割を超えて最も多く、次いで「食料・飲料水などの備蓄」（58.6%）、「家具などの転倒防止」（42.1%）、「近くの学校や公園など、避難経路・避難場所の確認」（40.8%）、「家族との連絡方法についての話し合い」（34.5%）などの順となっている。

(2) 大地震発生時に家族の食生活をまかなえる日数

【本文 133ページ】

「3日分」が（1）食料品（40.9%）ではほぼ4割、（2）飲料水（34.3%）で3割半ばとそれぞれ最も多くなっている。ともに次いで「1日分」、「2日分」の順となっており、3日分までの計で食料品は7割ほど、飲料水は6割ほどとなっている。

(3) 「避難拠点」についての認知内容

【本文 136ページ】

「『避難拠点』は区立の小中学校である」（78.1%）が8割近くと最も多くなっている。次いで「災害が起きたときには、水・食料の配給拠点となる」（41.7%）、「災害が起きたときには、避難生活への支援の拠点となる」（38.3%）、「災害が起きたときには、地域の防災活動の拠点となる」（28.9%）などの順となっている。

(4) 災害発生時に協力できる地域の防災活動

【本文 140ページ】

「救援物資の仕分けや配布、炊き出しや食事を手伝う」（57.3%）が6割近くと最も多く、次いで「避難拠点（避難所）の活動を手伝う」（49.5%）、「近所の高齢者や障害者など手助けが必要な方々の安否確認を行う」（47.9%）、「壊れた家屋などの片づけを行う」（39.4%）、「子どもの世話や遊び相手をする」（37.7%）などの順となっている。

(5) 平成25年中の地域の防災訓練参加経験

【本文 143ページ】

「参加したことがある」（12.2%）は1割近く、「参加したことがない」（85.3%）は8割半ばとなっている。

(5-1) 参加経験のある訓練内容

【本文 145ページ】

昨年の平成25年中に地域の防災訓練に「参加したことがある」と答えた方（120人）の参加経験のある訓練内容は、「地域の町会・自治会・防災会等が開催した訓練」（59.2%）が6割近くと最も多く、次いで「区立小中学校で開催された避難拠点訓練」（42.5%）となっている。「練馬区が行っている訓練等」（7.5%）は1割未満となっている。

(6) 今後区に力を入れて取り組んでほしい防災対策

【本文 146ページ】

「水や食料などを被災者にいきわたるように十分に備蓄する」（64.3%）が6割半ばと最も多く、「災害が起こったときも医療機関が活動を継続できるようにする」（50.9%）、「区民に必要な情報を伝えるための情報連絡体制を整備する」（40.2%）、「避難拠点（避難所）の整備をすすめる」（30.9%）などの順となっている。

3 防犯・防火について

(1) 過去（5年程度）と比較しての区の治安

【本文 148ページ】

「変わらない」（45.5%）が4割半ば、「良くなった」（3.7%）と「やや良くなった」（12.7%）を合わせた『良くなった』（16.3%）は1割半ばとなっている。一方、「やや悪くなった」（8.2%）と「悪くなった」（3.6%）を合わせた『悪くなった』（11.7%）は1割近くとなっている。

(2) 区において自分や身近な人が犯罪被害に遭うかもしれない不安

【本文 151ページ】

「非常に感じる」（7.3%）と「やや感じる」（41.1%）を合わせた『感じる』（48.5%）は5割近くとなっている。一方、「あまり感じない」（39.7%）、「まったく感じない」（3.2%）を合わせた『感じない』（42.9%）が4割を超え、二分している。

(2-1) 自分や身近な人が被害に遭うかもしれないと感じる犯罪

【本文 154ページ】

自分や身近な人が犯罪被害に遭う不安を「非常に感じる」または「やや感じる」と答えた方（475人）の被害に遭うかもしれないと感じる犯罪は、「空き巣・ひったくりなど窃盗」（67.6%）が7割近くと最も多く、次いで「危険運転による交通事故」（52.8%）、「子どもに対する犯罪」（48.4%）、「振り込め詐欺などの特殊詐欺」（38.3%）、「刃物を使用した通り魔」（34.1%）などの順となっている。

(3) 7年連続で区の犯罪発生件数減少についての認知状況

【本文 158ページ】

「知っている」（6.3%）は1割未満となっている。

(4) 区の安全・安心（治安）活動の参加経験・参加意向

【本文 160ページ】

「既に参加している」（6.3%）は1割未満となっている。「参加したい」（2.8%）と「できれば参加したい」（34.6%）を合わせた『参加意向（未参加者）』（37.3%）は4割近くとなっている。

(4-1) 区の安全・安心（治安）活動参加時に感じる問題

【本文 163ページ】

区の安全・安心（治安）活動に「既に参加している」と答えた方（62人）の活動に参加して問題に感じていることは、「メンバーの高齢化」（38.7%）が4割近くと最も多く、次いで「活動のマナー化」（30.6%）、「地域に活動が知られていない」（22.6%）などの順となっている。

(4-2) 区の安全・安心（治安）活動に参加しない・参加できない理由

【本文 164ページ】

区の安全・安心（治安）活動に「参加したい」～「参加できない」と答えた方（886人）の活動しない・できない理由は、「忙しくて時間がとれないから」（49.5%）がほぼ5割と最も多く、次いで「参加する機会がないから」（33.2%）、「活動のやり方がわからないから」（26.6%）などの順となっている。

（５）区の安全・安心施策の満足度

【本文 168ページ】

「満足である」と「やや満足である」を合わせた『満足評価』の割合は、（６）安全・安心パトロールカーによる定期的な巡回（47.8%）が5割近くと最も多く、次いで（２）学校や地域の団体等が連携し、協力して防犯・防火活動ができるよう支援すること（38.9%）、（３）犯罪発生情報の提供（メール配信など）（35.9%）などの順となっている。一方、「やや不満である」と「不満である」を合わせた『不満評価』の割合は、（５）防犯カメラ設置費用の助成（14.3%）、（６）安全・安心パトロールカーによる定期的な巡回（11.6%）が1割台となっている。

（６）区の安全・安心施策の重要度

【本文 177ページ】

「重要である」と「やや重要である」を合わせた『重要である』の割合は、（６）安全・安心パトロールカーによる定期的な巡回（81.2%）が8割を超えて最も多く、次いで（５）防犯カメラ設置費用の助成（76.9%）、（２）学校や地域の団体等が連携し、協力して防犯・防火活動ができるよう支援すること（76.7%）、（３）犯罪発生情報の提供（メール配信など）（70.9%）などの順となっている。

4 文化芸術・生涯学習について

（１）１年間に直接鑑賞・体験した文化芸術の分野

【本文 186ページ】

「映画・漫画・アニメ」（50.5%）がほぼ5割と最も多く、次いで「音楽等のコンサート」（36.6%）、「美術（絵画・写真・彫刻・陶芸など）」（35.7%）、「歴史・自然景観・動植物」（33.2%）などの順となっている。

（２）区内の文化芸術環境の満足度

【本文 188ページ】

「わからない」（52.8%）が5割を超えている。「満足している」（2.9%）と「どちらかといえば満足している」（20.7%）を合わせた『満足評価』（23.6%）は2割を超えている。一方、「どちらかといえば満足していない」（13.8%）と「満足していない」（4.2%）を合わせた『不満評価』（18.0%）は2割近くとなっている。

（３）区内の文化芸術鑑賞の満足している分野および満足していない分野

【本文 190ページ】

区内の文化芸術環境の満足度について「満足している」または「どちらかといえば満足している」と答えた方（231人）の満足している分野は、「ホール・劇場、美術館・博物館などの文化施設の充実」（69.3%）がほぼ7割と最も多く、次いで「アニメや漫画を活かしたまちづくりの推進」（35.1%）、「公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実」（32.9%）、「地域の芸能や祭りなどの継承・保存」（27.3%）などの順となっている。

他方、区内の文化芸術環境の満足度について「どちらかといえば満足していない」または「満足していない」と答えた方（176人）の満足していない分野は、「ホール・劇場、美術館・博物館などの文化施設の充実」、「公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実」（ともに47.2%）が5割近くと最も多く、満足している分野において上位に挙げられている項目が上位となっている。次いで「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」（39.2%）、「歴史的な建物や遺跡などを活かしたまちづくりの推進」（21.0%）などの順となっている。

(4) 区内の文化芸術活動に対して必要な区の支援策

【本文 195ページ】

「区民が気軽に参加できる文化芸術に関する催し物・イベントの開催」(44.1%)が4割半ばと最も多く、次いで「音楽会や公演、展覧会などの開催(増加等)による鑑賞の機会の充実」(42.4%)、「区内の文化芸術に関する情報の一元化、発信の充実」(25.9%)、「区の伝統文化の継承と保護」(22.6%)などの順となっている。

(5) 1年間に参加経験のある学習活動分野

【本文 197ページ】

「健康・スポーツに関すること(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)」(24.8%)が2割半ばと最も多く、次いで「趣味的なこと(音楽、美術、華道、舞踊、書道、園芸など)」(20.6%)、「職業上必要な知識・技能の取得に関すること」(10.2%)、「教養的なこと(文学、歴史、科学、語学、社会問題など)」(9.8%)などの順となっている。

なお、「(この1年くらい)何もしていない」(44.2%)は4割半ばとなっている。

(6) 学習活動の知識・経験を活かしているおよび活かしたい分野

【本文 199ページ】

「自己の向上と生活への潤い」(30.3%)が3割を超え、次いで「健康の維持・増進」(27.7%)、「家庭・日常生活」(24.5%)、「仕事や就職」(21.9%)などの順となっている。一方、「活かしていない」(30.1%)は3割を超えている。

(7) 生涯学習推進のために今後区に力を入れて取り組んでほしいこと

【本文 201ページ】

「子どもが地域活動等を学ぶ機会の充実」(30.0%)が3割と最も多く、次いで「生涯学習施設などにおける講座・講習等サービスの充実や開設時間の延長」(27.9%)、「学校図書館やグラウンドなど学校施設の地域開放」(27.6%)、「学習活動に関する情報の一元化、発信の充実」(23.9%)、「大学などの公開講座の充実」(22.7%)などの順となっている。

5 男女共同参画に関する意識と実態について

(1) 男女の役割分担に対する考え方

【本文 203ページ】

『男は仕事、女は家庭』という考え方について、「そう思う」(3.0%)、「どちらかといえばそう思う」(22.2%)を合わせた『思う』(25.2%)は2割半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(32.1%)、「そう思わない」(38.2%)を合わせた『思わない』(70.3%)がほぼ7割となっている。

(1-1) 『男は仕事、女は家庭』と思う理由

【本文 205ページ】

『男は仕事、女は家庭』という考え方について「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた方(247人)のそう思う理由は、「男性は外の仕事、女性は家事・育児・介護に向いているから」(45.7%)が4割半ばと最も多く、次いで「夫婦は役割をはっきりさせた方が、家庭生活がうまくいくから」(34.8%)、「子どものときから、そうした教育をされているから」(25.1%)、「妻が働きに出ると、家庭にうるおいがなくなるから」(20.2%)などの順となっている。

(2) 家庭における男女の役割分担

【本文 208ページ】

(1) 本来あるべき役割分担は、「男女とも仕事をし、家事等は男女がともに分担」(52.7%)が5割を超えて最も多く、次いで「男性は仕事、女性は家事等にさしつかえない範囲で仕事」(22.8%)となっている。

(2) 実際の役割分担は、「男性は仕事、女性は家事等を分担」(23.9%)が2割を超えて最も多く、次いで「男性は仕事、女性は家事等にさしつかえない範囲で仕事」(18.1%)、「男女とも仕事をし、家事等は主に女性が分担」(16.3%)、「男女とも仕事をし、家事等は男女がともに分担」(14.0%)などと1割台で分散している。

本来あるべきより実際が上回っているのは、「男性は仕事、女性は家事等を分担」(16.8ポイント差)、「男女とも仕事をし、家事等は主に女性が分担」(13.1ポイント差)などとなっている。一方、実際より本来あるべきが上回っているのは、「男女とも仕事をし、家事等は男女がともに分担」であり、38.7ポイントの差となっている。

(3) 男性が家事・子育て等に参画するために必要なこと

【本文 214ページ】

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(57.0%)が6割近くと最も多く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(47.8%)、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(43.8%)、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」(43.7%)などの順となっている。

(4) 女性と仕事の最も望ましいかわり方

【本文 217ページ】

「子育ての期間は退職して育児に専念し、その後、再就職する」(46.7%)が4割半ばと最も多く、次いで「結婚して子どもが生まれても、仕事を一生続ける」(25.6%)が2割半ばとなっている。

(5) 生活の中での優先度(ワーク・ライフ・バランス)

【本文 219ページ】

(1) 希望については、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」(31.7%)が3割を超えて最も多く、「『家庭生活』を優先したい」(23.9%)、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」(15.8%)、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」(7.6%)などの順となっている。

(2) 現実(現状)については、「『家庭生活』を優先している」(25.1%)、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」(24.3%)、「『仕事』を優先している」(22.4%)がそれぞれ2割台となっている。

希望より現実(現状)が上回っているのは、「『仕事』を優先している」(17.2ポイント差)となっている。一方、現実(現状)より希望が上回っているのは、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(7.4ポイント差)、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」(11.1ポイント差)となっている。

(6) 男女平等についての考え

【本文 225ページ】

「男性のほうが優遇」と「どちらかといえば男性のほうが優遇」を合わせた『男性のほうが優遇』は(4)政治の場において(73.0%)、(6)社会通念・慣習・しきたりにおいて(71.2%)でそれぞれ7割を超えている。次いで(7)社会全体として(69.3%)が7割近く、(2)職場において(62.1%)が6割を超えている。「男女平等である」は(3)学校教育の場において(55.0%)が5割半ばとなっている。

(7) 親しいパートナーの有無

【本文 234ページ】

「いる」(72.1%)が7割ほど、「いない」(23.6%)が2割半ばとなっている。

(7-1) ドメスティックバイオレンス経験の有無

【本文 236ページ】

親しいパートナーが「いる」と答えた方(707人)のパートナーからの身体的・精神的・経済的な暴力を受けたことがあるかは、「何度もあった」と「1~2度あった」を合わせた『あった』は(5)「誰のおかげで、お前は食べられるのだ」(女性)、「安月給の甲斐性なし」(男性)などと言われた(11.3%)、(1)長期間、無視された(10.5%)が1割台となっている。次いで(8)平手で打たれたり、蹴られたり、噛まれたりした(8.8%)、(2)交友関係や電話を細かく監視された(8.5%)などとなっている。ほとんどの項目で「まったくない」が9割から9割半ばとなっている。

(8) 男女共同参画社会実現のために区へ望むこと

【本文 240ページ】

「一時保育・病児保育・夜間保育などを含む保育事業の充実」(54.8%)が5割半ば、「高齢者介護制度など福祉の充実」(49.6%)が5割近くと多く、「仕事と家庭の両立に関する情報の提供や相談の充実」(24.6%)、「政策決定の場への積極的な女性の登用」(16.7%)、「女性の自立やステップアップのための講座や講演会の充実」(15.4%)などの順となっている。

